



What is Kanjiro's charm?

# 河井寛次郎展

豊田市民芸館開館40周年記念・河井寛次郎記念館開館50周年記念

2023.12.16(土)  
|  
2024.3.10(日)

休館：月曜日(1月8日、2月12日は開館)  
年末年始(12月28日-1月4日)  
開館時間：午前9時-午後5時  
会場：第1・2民芸館  
観覧料：一般500円 高大生300円  
中学生以下と豊田市在住の70歳以上、障がい者は無料(要証明)\*  
\*その他の減免については豊田市民芸館HPをご覧ください。

主催：豊田市民芸館 共催：中日新聞社  
出品協力：河井寛次郎記念館、京都国立近代美術館  
興洲陶彫像|昭和37年頃|54.8×20.0×16.4cm

豊田市民芸館



1



2



3

## 河井寛次郎展 -寛次郎の魅力は何ですか-

日本を代表する陶芸家・河井寛次郎(1890-1966)は、柳宗悦、濱田庄司とともに日用雑器の美へ関心を深め、「民藝」の新語を作り、民藝運動を推進しました。本展では当館開館40周年事業の一環として、開館50周年を迎えた京都の河井寛次郎記念館の所蔵品より、陶芸家・河井寛次郎の創作活動の全貌を紹介します。

河井の陶業は、東洋陶磁に倣った初期作品、民藝運動を牽引する中での実用を意識した中期作品、独創的な造形美へと変化した後期作品に大別され、いずれも技巧性・独創性において高く評価されています。また、陶業のみにおさまらず、その表現は木彫や書、デザイン分野など多岐にわたります。今回は河井寛次郎の陶業の仕事や、昭和・戦後期に作られた木彫像や木彫面、真鍮のキセル、河井の人間性・精神性を表現した書など、2点の初公開作品もあわせて約200点展覧し、多くの人々を惹きつけてやまない「表現者・河井寛次郎」の魅力にアプローチします。

また、関連企画として、美術家の中村裕太(1983-)が、河井の仕事にみられる造形感覚をその暮らしぶりからひも解いていく展示を行います。



4



5



6



7

1. 三島鳥天使水注|大正12年頃|17.4×20.0×9.8cm
2. 青染鱗文桃注|大正11年頃|10.0×19.0×12.5cm
3. 碧釉貼文扁壺|昭和40年頃|25.4×26.0×20.8cm
4. 三色打薬扁壺|昭和36年頃|30.0×23.1×17.4cm
5. 木彫面|昭和34年頃|59.5×36.5×13.0cm
6. 辰砂刷毛目扁壺|昭和12年頃|25.5×20.0×14.5cm
7. 拓本「此世このま」大調和|昭和25年頃|46.0×46.0cm

\*すべて河井寛次郎記念館所蔵

### 関連企画

#### ○記念講演会「祖父・河井寛次郎」

日時：令和6年1月20日(土)午後2時-3時半  
講師：鷺珠江氏(河井寛次郎記念館学芸員)  
会場：豊田市民芸館(第3民芸館)  
聴講：無料 ただし会期中の観覧券の提示が必要  
定員：先着50名(事前申込み不要)

#### ○「河井寛次郎の器でお茶を楽しむ」

日時：令和6年1月21日(日)  
午前10時-11時半/午後1時半-3時  
講師：鷺珠江氏(河井寛次郎記念館学芸員)  
会場：豊田市民芸館(茶室 勘桜亭)  
参加費：2,500円  
定員：各10名(要事前申込み)

申込み：往復はがき、またはHPの講座申込みフォームで、1月5日(金)までに必着。往復はがきの場合は、往復裏面に講座名・参加者名・住所・電話番号を記入。(1枚のはがきで2名までの申込み可)

その他：通常の勘桜亭営業は行いません

#### ○ギャラリートーク(当館学芸員による展示解説)

日時：令和6年2月17日(土)午後2時から(1時間程度)  
聴講：無料 ただし当日の観覧券の提示が必要



### [交通のご案内]

電車|名鉄三河線平戸橋駅より徒歩約15分  
車|東海環状自動車道豊田湯八ICより10分

豊田市民芸館 〒470-0331 愛知県豊田市平戸橋町波岩86-100  
Tel.0565-45-4039  
<https://www.mingeikan.toyota.aichi.jp/>

# 寛次郎の魅力は何ですか

明治23年(1890)、島根県安来に生まれた河井は、松江中学校時代に陶器の道へ進むことを決意し、東京高等工業学校(現・東京工業大学)窯業科へ進学、卒業後は京都市立陶磁器試験場に入所し、陶磁や釉薬の研究に従事しました。

## 第1民芸館 〈「釉薬(すりの)の河井」から「造形(かたち)の河井」へ 表現者・河井寛次郎〉

河井の初期から後期までの陶業や木彫を展観、また、河井の書を通して「表現者・河井寛次郎」を紹介します。

Kawai  
Kanjiro



- 第1民芸館展示品
- 8. 孔雀緑黒花文耳付壺|大正11年頃|16.0×15.4cm|個人蔵
  - 9. 白釉草花絵扁壺|昭和14年頃|33.3×29.2×21.7cm
  - 10. 異洲泥刷毛目扁壺|昭和38年頃|21.0×20.4×15.0cm|個人蔵
  - 11. 木彫像|昭和33年頃|66.0×33.0×28.0cm
  - 12. 書「泥身火魂」|昭和36年頃|60.0×48.5cm

## 第2民芸館 〈暮しが仕事 仕事暮し〉

暮しを意識した作品や、金工・木彫などのデザインの仕事を展観、また、河井の愛蔵品もあわせて紹介し、前例のない造形を生み出し「表現者」と形容された河井寛次郎の全貌に迫ります。



- 第2民芸館展示品
- 13. 辰砂窯変筒描碗|昭和25年頃|11.0×12.0cm|個人蔵
  - 14. 黒釉面取土瓶|昭和17年頃|17.4×20.0×15.4cm
  - 15. 真鍮キセル(デザイン)|制作・金田勝造|昭和25年頃～|最長28.5cm 最短15.0cm
  - 16. 木喰仏 釈迦如来像(愛蔵品)|享和元年(1801)|72.5×24.2×18.5cm
- ※表記のないものは河井寛次郎記念館所蔵

## 関連企画 眼で聴き、耳で視る|中村裕太が手さぐる河井寛次郎

河井寛次郎展の関連企画として、美術家中村裕太(1983-)が、河井の仕事にみられる造形感覚をその暮しぶりからひも解いていく展示を行います\*。  
河井は日本民芸館の初代館長である柳宗悦と志を同じくし、民芸運動を共に牽引しました。本展では、豊田市第1民芸館が日本民芸館の建物の一部(大広間と館長室)を移築したものであることに着目し、元館長室に河井と柳にまつわる作品や資料などを設えていきます。会期中には、河井寛次郎記念館が所蔵している作品や家具などをもとに中村が制作した造形物に触れるワークショップも開催します。

\*本展では、2022年に京都国立近代美術館で「感覚をひらく」事業として開催された鑑賞プログラムを一部再構成するとともに、新たな視点を加えて開催します。

## 関連事業 ○トークショー「河井寛次郎に聴き、柳宗悦に視る」

河井と柳が終生交わし合った言葉を引き合いに、二人が何を聴き、見ていたのかを推察する『アウト・オブ・民藝』著者たちによる、なかよしトーク。

- 日 時: 12月16日(土) 午後2時-3時半
- 講 師: 輪原ユウスケ(デザイナー)×中村裕太(出品作家)
- 会 場: 第3民芸館
- 聴 講: 無料(ただし当日の観覧券の提示が必要)
- 定 員: 先着40名(事前申込不要)



- 17. 1930年頃 京都・河井邸にて 左: 河井寛次郎(当時40歳頃)、右: 柳宗悦(当時41歳頃)
- 18. 河井寛次郎記念館 木製丸玉手すり(画像提供: 京都国立近代美術館)
- 19. 河井寛次郎記念館 庭の丸石(画像提供: 京都国立近代美術館)

## 作家紹介|中村裕太

1983年東京生まれ、京都在住。京都精華大学博士後期課程修了。博士(芸術)。京都精華大学芸術学部准教授。〈民俗と建築にまつわる工芸〉という視点から陶磁器、タイルなどの学術研究と作品制作を行なう。近年の展示に「チョウの軌跡」長谷川三郎のイリュージョン(京都国立近代美術館、2023年)、「第17回イスタンブール・ビエンナーレ」(バリン・ハン、2022年)、「眼で聴き、耳で視る」中村裕太が手さぐる河井寛次郎(京都国立近代美術館、2022年)、「万物資生」中村裕太は、資生堂とを調合する(資生堂ギャラリー、2022年)、「MAMUリサーチ007: 走泥社—現代陶芸のはじまりに」(森美術館、2019年)、「あいちトリエンナーレ」(愛知県美術館、2016年)、「第20回シドニー・ビエンナーレ」(キヤリッジワークス、2016年)など。著書に『アウト・オブ・民藝』(共著、誠光社、2019年)。

## ○ワークショップ「眼で聴き、耳で視る」

旧館長室に設えられた中村が制作した造形物を見て、聴いて、触れることで、河井の造形の魅力を新たな角度から読み解いていきます。

- 日 時: ①12月16日(土)10時半-12時 ②3月2日(土)午後2時-3時半
- 講 師: 中村裕太(出品作家)
- 会 場: 旧館長室(第1民芸館)
- 定 員: 各回8名程度/参加無料(ただし会期中の観覧券の提示が必要)
- 申込み: 民芸館HP講座申込みフォームにて①12月6日(水) ②2月21日(水)までにお申込みください。